

通訳案内士試験道場地理④ 四国/兵庫 関連動画

香川県

金刀比羅宮

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990057_00000

寒霞溪 オリーブ

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004060041_00000

讃岐うどん

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990049_00000

愛媛県

石鎚山

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990242_00000

松山城

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990062_00000

内子

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500098_00000

しまなみ海道

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004120010_00000

高知県

四万十川

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004430011_00000

桂浜

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004090035_00000

徳島県

鳴門

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500091_00000

脇町

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004410087_00000

かずら橋

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004430118_00000

大歩危

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500160_00000

兵庫県

姫路城

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990059_00000

城崎温泉

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500144_00000

出石

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004290028_00000

有馬温泉

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500451_00000

神戸

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500143_00000

明石市

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004430406_00000

六甲山

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004060034_00000

神戸南京町

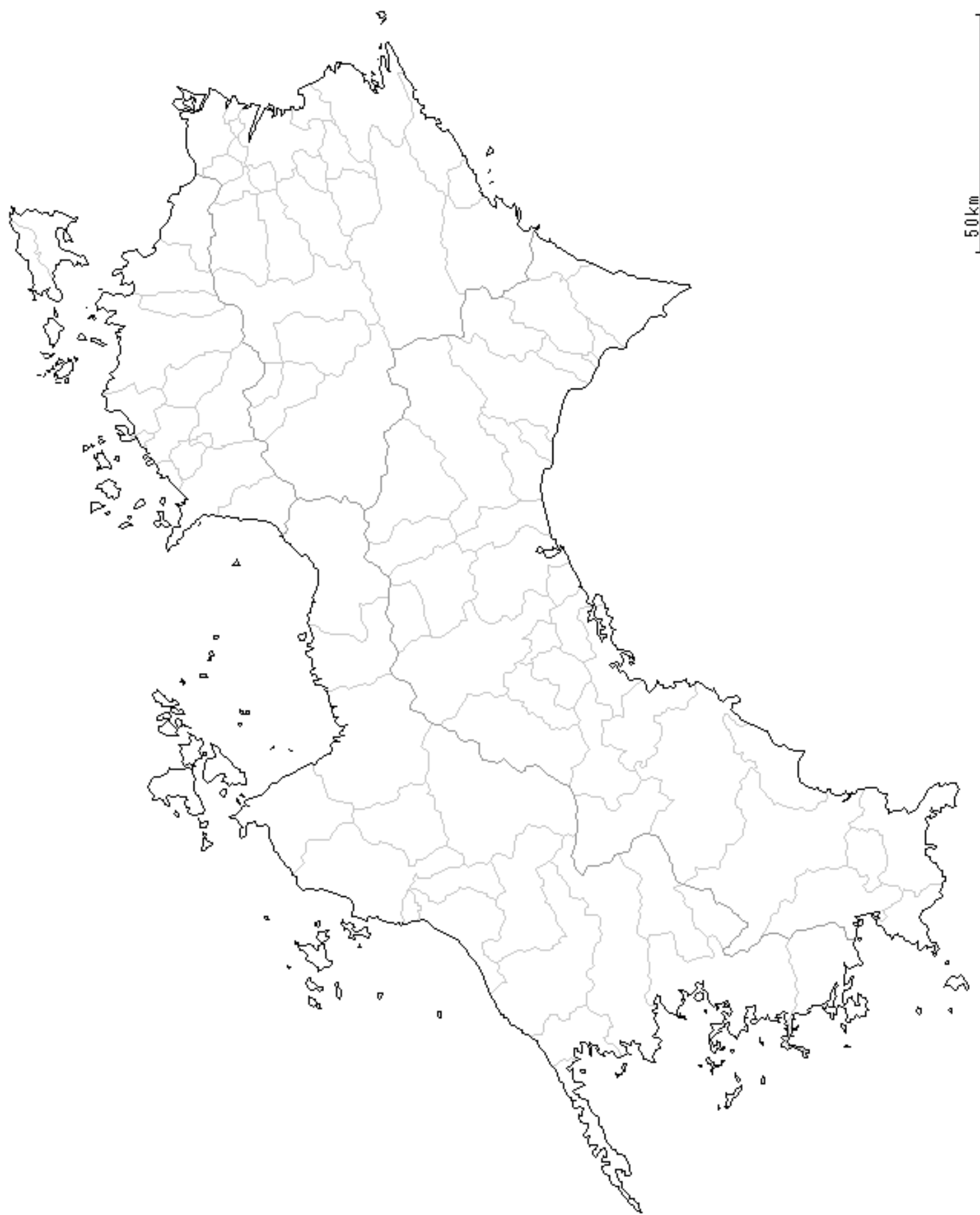
<http://machi-log.jp/spot/99566>

ノルウェイの森

<http://www.youtube.com/watch?v=LzI4xMxdBtU>

コウノトリ

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?did=D0013772614_00000



高田の独り言

四国の城

幕末には三百近くの藩があったといいますが、そのうち日本の城郭のシンボルともいえる天守は、私の知る限り歴史上八十あまりあったようです。しかし現在残る天守は十二だけです。

天守がなくなった理由は主に三種類あります。まずは天災です。安土桃山時代と江戸時代には火災や地震、台風などでそのうちの二十六がなくなりました。

次に明治時代の人災です。封建時代の遺物であった天守を積極的に破壊したため、明治時代の始めの十年で三十二が人為的に破壊され、その後も五つもの天守が破壊されました。日本版「文化大革命」のようですね。

もう一つは戦災です。太平洋戦争期の昭和二十年夏の米軍による空襲および原爆投下により、わずか三カ月で江戸時代の天守が七つもなくなりました。その結果戦後に残った天守は十三となり、さらに戦後間もなく一か所が火災で焼失し、現存するものは十二です。

前置きが長くなりましたが、この十二天守のうち、実に三分の一が四国に集中しています。そしてそれぞれの城下町がその地域の独自の都市を形成してきました。讃岐の丸亀城は、日本一の高さを誇る三段石垣の上に、日本一小さな天守がそびえ、そこからの景色は絶景です。前には瀬戸内海の島々と瀬戸大橋、讃岐富士としてしままれる飯野山等が望めます。そして各藩で独自の産業が発達したのですが、ここでは団扇の生産が発達し、全国の団扇の九割がこの城下町で作られています。

また、土佐には高知城があります。ここは戦国時代には四国最大の大名である長宗我部氏が支配していましたが、関ヶ原の戦いで敗れてからは山内氏とその家臣が支配者として入城し、「上士」と名乗り、もともといた長宗我部の家来を「郷土」とし、差別的な扱いをしました。そこで上士と郷土の対立から幕末に脱藩したのが坂本竜馬たちだったのです。ちなみにこの町で生まれ育ち、明治時代に自由民権運動を起こし、国会成立のもととなった板垣退助は上士の出身です。

このような「熱血漢」たちを輩出した土地柄ですので、酒豪が多く、酒の肴として皿鉢料理などができ、またよさこい踊りなどで燃えるのもうなずけます。

伊予には二か所の天守があり、一つは県庁所在地にある松山城です。四国の城下町の中でも、特に文化的な香りを漂わせるのがこの町です。藩政時代の城郭建築が最もよく保存され、また「坊っちゃん」や明治時代の俳人正岡子規たちにちなんだ観光施設も多いです。



↑「春や昔 十五万国の城下かな」子規

一方、伊予南部の中心地は宇和島藩でした。リアス式海岸が発達し、足摺宇和海国立公園にも指定されているこの風光明媚の静かな町でも、幕末には大きな変化がありました。日本で初めて様式の軍艦が製造されたり、蘭学で有名な高野長英に洋式兵学の翻訳をさせたりしたのもこの藩でした。

このように、天守を中心に四国のそれぞれの城下町を紹介しましたが、四国では明治期に人為的な城郭破壊や、米軍の空襲による破壊がほとんどなかったことため、今のような江戸時代そのままの街並みや文化が残っているといえるでしょう。そして江戸時代以降の四国の歴史をつぶさに見てきたのが、これらの天守なのです。

瀬戸内海国立公園

瀬戸内海国立公園は、霧島や雲仙と並び、日本で初めて国立公園として指定されたところの一つです。そして日本で最も面積の広い国立公園でもあります。このうち、四国に関しては高知県を除くその他す



↑屋島から見る瀬戸内海の夕暮れ（高松市）

すべての県の海岸や山々がこの国立公園に指定されています。私は18歳の時、瀬戸内海一周をサイクリングしたことがありますが、ペダルをこぐたびにかわってゆく風景が今でも脳裏に焼き付いています。

思い出深いところとしては、まず徳島県ならば鳴門の渦潮です。大鳴門橋を渡っているとき、偶然にも渦潮が発生しました。「これがかの有名な・・・」と思って見ていると、だんだん目が回ってきて、ペダルを踏みながらふらふらしてきました。ち

なみにここに行かれる場合は地元の観光協会で渦潮が発生する時間帯を調べ、前後のスケジュールはすべてこの渦潮に合わせることをお勧めします。

香川県では源平合戦の起こった屋島が記憶に残っています。日本の中学生がみな学ぶ「平家物語」のうち、「扇的」として知られる那須与一の話の思い出しながら、かつての戦場をさまよいました。

そして愛媛県では今治市から見える来島海峡に点在する島々の美しさと、豊予海峡に向けて西にまっすぐ突き出る佐多岬半島に点在するみかん畑が記憶に残っています。

日本国内をあちこち歩き回り、それなりに美しい風景を見てきたつもりですが、外国人に誇るべき風景としてどこがおすすめかと言われると、西日本では瀬戸内海かもしれません。ちなみに日清戦争時、下関条約を結びに来た李鴻章は、瀬戸内海を見て「日本にもこんなに大きな川があったとは！」と驚いたという話が残っています。真偽はともかく、中国人から見たら島々や対岸が見える内海は長江や黄河のような大河にみえたのかもしれないね。

神戸と華僑と辛亥革命

神戸という町はもともと平清盛が日宋貿易の際に福原港や福原京を造営したことが都市としての発展の始まりですが、今ある神戸の直接の成り立ちは幕末に結んだ日米修好通商条約による開港に起因します。

明治以降は横浜と同じく多くの華僑たちがこの町に住むようになりました。2010年の年末に私は一人で朝から夜まで神戸の華僑に関する史跡をフィールドワークしました。すると近代においてこの町の果たした非常に大きな役割に改めて気づきました。

上海の南の寧波人、広東人、そして台湾人というお互い言葉の通じない華僑たちのための中国語教育をし、民族教育をしてきた神戸中華同文学校というところがあるのですが、中国が国民党と共産党に分かれて以来日本の華僑も両派に分かれ、横浜の華僑は思想によって学校が分裂しました。しかし神戸はこの学校が中立を守ってきました。神戸同文学校の石垣には孫文も来訪したという石碑も残っています。



↑諏訪山稲荷神社、提灯の文字の色に注目

その学校から急な坂を登っていくと諏訪山稲荷神社というところがあり、そこでは日本人の氏子とともに華僑たちも積極的に寄進してお稲荷さんを祀っています。

提灯を奉納する場合も特徴があり、日本人は白地に黒、華僑は白地に赤で名前を描きます。白黒は中国で縁起が悪いからでしょう。

もう少し規模は小さいのですが神戸駅近くの松尾神社でも、「まつお」が華僑たちの信仰、「媽祖（マーツー）」と似た発音だということで信仰を受けています。逆に在日コリアンで日本の神社に集団的に氏子になるという例は聞いたことがないだけに、面白い現象です。

なお、全世界の華僑の信仰の対象となっている関帝廟も、神戸同文学校の近くにありますが、戦争や火事、阪神淡路大震災などで何度も被害をうけましたが、その都度復興してきたのは横浜関帝廟と同じです。

極彩色の寺院と道教寺院独特の線香の匂いがいかにも中国風ですが、実はこの建物は日中の合作を目的にして、日本の職人が中国様式を取り入れて1948年に建てたものなのです。

地下鉄山手駅そばの兵庫県庁まえには、孫文がなくなる前の最後の訪日で行った「大アジア主義」（日本は中国への侵略をやめ、日中両国が連携して欧米に立ち向かうべきであるという主張）という歴史に残る講演を行った場所であることを示す石碑があります。

神戸華僑というと、どのガイドブックにもものっているのが南京町でしょう。横浜に比べると規模も小さいのですが、ここを拠点とした神戸華僑が辛亥革命時に他の東南アジア華僑全体と同じぐらいの金額を孫文たちに寄付したと言われていています。今は中国人留学生らしいアルバイト学生たちが盛んに客引きをしています。ちなみにこの南京町の西には神戸華僑総商会（KCC）ビルというのがあり、そのビルの中に神戸華僑のこのような歴史がパネルや遺留品とともに学べる神戸華僑歴史博物館があります。



郊外ですと、JRで神戸駅からしばらく下ったところに、舞浜という駅があるのですが、その海岸には八角堂の極めて豪華な和洋折衷ならぬ「華洋折衷」の孫文記念館があり、孫文と辛亥革命、そして彼らを支えた神戸華僑たちの軌跡が学べます。

↑ 明石海峡大橋下の孫文記念館

また、神戸電鉄有馬線で、三古湯で知られる有馬温泉に行く途中の長田駅で下車したら、華僑の墓地、神阪義荘があります。遠く故国を離れて神戸に「落地生根（根を下ろすこと）」してきた華僑たちの墓地です。お墓の様式が和風もあれば中華風やキリスト教式墓地もあります。そしてほとんどの墓に出身地が書いてあるのも特徴です。観光地ではないので道が非常に分かりにくいですが、行く価値はあります。

最後に、観光客でにぎわう異人館で知られる北野地区には異色の建物があります。中華民国の親日政権とされる汪兆銘政府の領事館です。調度品の一つ一つをとっても高貴なオリエンタルムードあふれるこの建物ですが、この政権がかつて日中戦争当時に神戸華僑に支持を強要したためか、また戦後は国民党からも共産党からも「親日売国政権」とされたからかわかりませんが、神戸華僑からはほとんど無視されているようで、前述の神戸華僑歴史博物館発行の「神戸華僑関係地図」にも載っていません。このところが故国の政権に左右されてきた神戸華僑のもつ複雑さでしょうか。

このように神戸という町は、特に中国語で通訳案内士試験を受験しようとする方にはとても多くのことが学べる土地です。次回訪問することがありましたら、ぜひともこれらの中の何カ所でも訪れていただければ幸いです。